

卒業論文要旨

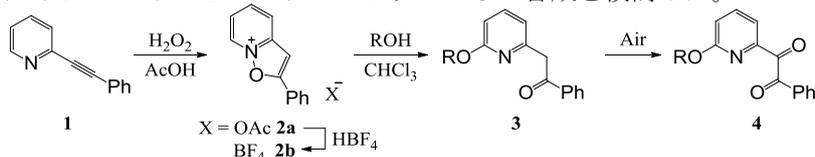
6 位にアルコキシ基を有するフェナシルピリジンの合成とその化学的挙動

1150261 藤本 俊樹

Synthesis and Chemical Behavior of 6-Alkoxy-2-phenacylpyridines

FUJIMOTO, Toshiki

フェナシルピリジン骨格は古くから抗菌剤などに利用されてきたが、官能基を有するものについては、有用性が期待されるにも拘らず、その合成は困難である。そこで本研究では、エチニルピリジン **1** を前駆体に用いた 6-アルコキシ-2-フェナシルピリジン **3** の合成を検討した。



エチニルピリジン **1** の環窒素を過酸化水素で酸化したところ、中間体として生成した *N*-オキソドがアルキン部位との間で閉環し、イソオキサゾロピリジニウム塩 **2a** を与えた。液体である **2a** に HBF_4 を作用させて、アニオン交換することにより、取り扱いの容易な固体の **2b** に変換した。こうして調製した **2b** にアルコールを作用させたところ、6 位にアルコールが攻撃するとともにフェナシル基の脱離を伴った開環反応が進行し、目的生成物 **3** を得ることに成功した。また、生成物 **3** は空气中に放置するだけで酸化され、ピリジル基とフェニル基を併せ持つ非対称な α -ジケトンに変換されることも見出した。この化学的挙動が 6 位のアルコキシ基に因るのかどうかについても併せて検討を行った。